Faculty Development

日本大学 FD NEWSLETTER

SPRING 2025 VOL 26



Contents

特集 剽窃チェッカーを用いた,学生のアカデミック・ライティングスキルの向上 2

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 4
第18回 [生産工学部]学生FDが挑む学びの架け橋づくり

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供
第19回 [歯学部]薬理学教育におけるアクティブ・ラーニングの導入

COVER PHOTO

法学部経営法学科の小阪敬志ゼミナールの活動風景です。制度会計を専門とする小阪ゼミでは，会計学のゼミによる研究発表大会「アカウンティングコンペティション」に参加しており，第6回大会で審査員特別賞を受賞しています。(担当教員 小阪敬志准教授)

特集 Canvas LMS 導入 第2弾

剽窃チェッカーを用いた，学生のアカデミック・ライティングスキルの向上

本学では，学修管理システム Canvas LMS の全学導入と同時に，剽窃チェッカーである Feedback Studio の利用を開始しました。同サービスの利用により，学生のアカデミック・ライティングスキルの向上を目指します。

1 剽窃チェッカーとは ～ Canvas LMS と LTI 連携をして，Feedback Studio を導入～

Feedback Studio は，アメリカの Turnitin 社が開発した，学生指導用の剽窃チェッカーです。学生から提出されたレポートの剽窃の可能性をチェックする機能に加え，フィードバックや評価を一括してできる機能も備えています。インターネットの普及により，引用文献が多様化する中，文献の正しい引用方法を指導することで，学生のアカデミック・ライティングスキルの向上を目指します。また，Feedback Studio は，Canvas LMS との LTI 連携によってレポートの採点・評価をより効率的に行うことができるため，教員の業務負担軽減にも効果が期待できます。

Feedback Studio の2つの機能

Similarity Report

剽窃防止のための類似性チェック。世界各国のレポートが保存された Feedback Studio のデータベースを使い，他のレポートと一致がないかどうかを検知する。

Grade Mark

学生から提出されたレポートに対して効率よく一貫性のあるフィードバックと評価を行う。

類似性チェックを行うデータベース

標準レポートリポジトリ	機関レポートリポジトリ	インターネット上のウェブページ	刊行物やジャーナル，出版物
世界各国からアップロードされた19億以上の学生のレポートをデータベース化し，不適切な剽窃箇所がないか比較照合をする。	本学のプライベートデータベース。Feedback Studio に提出したレポートをストックしておくことができ，それらとの類似をチェックする。	インターネット上の情報やソースからコピー＆ペーストをしていないか，470億以上のウェブページとの類似を確認する。	1.9億以上の雑誌論文・学術論文等と比較・照合し，類似性をチェックし，学術・研究不正行為を未然に防ぐ。

教員に期待できる効果

レポート評価作業の効率化

●学生が提出したレポートについて，論文の書き写しやウェブサイトからのコピー＆ペースト，学生間でのレポートの写し合いなどをしていないかのチェックを効率よく行える。

学生への効果的なフィードバック

●学生が提出したレポートの添削や採点，返却までを一括で行うことができ，文献の引用方法などを指導できる。英文レポートのスペル・構文も自動的に添削してくれるため，教員の負担が大きく軽減。

学生に期待できる効果

課題の類似度スコアを確認でき，不正行為を抑制・防止

●学生にレポート提出前に本ツールを活用して類似度をチェックさせることで，不正行為を抑止することが期待できる。

正しい引用方法などのアカデミック・ライティングスキルの向上

●教員からのフィードバックを通じて，文献の正しい引用方法など，レポートの書き方を学ぶことで，アカデミック・ライティングスキルの向上に繋がる。

Point

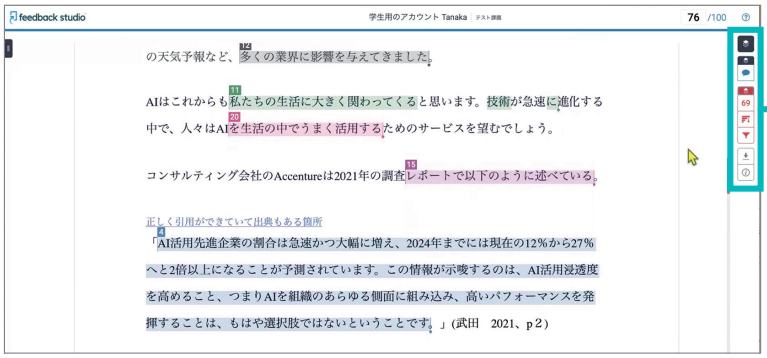
類似性スコア偏重の判断は禁物！スコアの高低が問題ではありません。

剽窃チェックは学生のレポートの質向上を図るための補助的なツールです。類似性チェックで表示されるスコアが「高いからダメなレポート」「低いからよいレポート」というわけではありません。レポートは自分の主張がしっかり書かれていることや文献が適切に引用されていることが重要です。学生がそうしたスキルアップをするための指導に剽窃チェッカーを活用していきましょう。

2 剽窃チェッカー（Feedback Studio）の具体的な活用方法

■ 剽窃のチェック【Similarity Report】

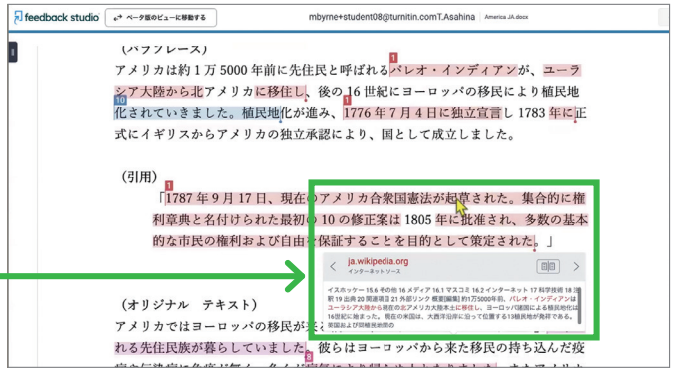
は，学生用の画面キャプチャ，は教員用の画面キャプチャを用いて解説していますが，★印は，学生用・教員用に共通して搭載されている機能です。





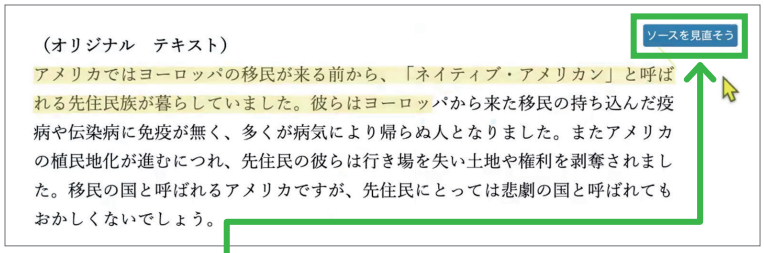
★類似性スコアと，一致したソースの表示
画面の右側のツールバーをクリックすると，類似性スコア（%）と一致したソースを表示することができます。

★類似性箇所をハイライトで表示
提出したレポートの類似性が示されています。緑や赤，青などのマーカーがついている文章は，インターネットや刊行物，他の学生レポートとの類似性があることを示しています。



★一致したソースの全文の確認も可能
4 種類のデータベースとの類似性チェックが可能。マーカーがついている文章をクリックすると，一致が見られた文章とその記載元が表示されます。

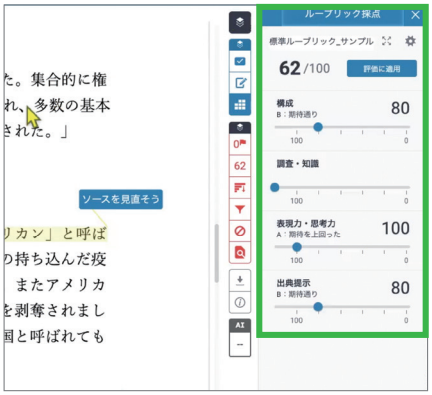
■ レポートのフィードバック【Grade Mark】



公正な評価を可視化できる「ルーブリック採点」
事前に Grade Mark 機能の中に，レポート評価のルーブリックを登録しておけば，その基準に沿って右のスケールを動かすだけで採点ができ，総合得点も自動的に算出してくれます。本学の場合は，その結果は LTI 連携している Canvas LMS に即座に反映されます。

便利な「クイックマーク」機能
よく使うコメントをスタンプにして，コメントを簡単に記すことができます。スタンプをクリックすれば，詳細コメント追加も可能。また文章や音声でもコメントを残せます。





教員のフィードバックを確認
「クイックマーク」のほかに，教員の文章記述やボイスコメントなどでも確認可能。評価基準のルーブリックを学生で確認も可能。



詳しくは全学共通 LMS（Canvas LMS）情報共有サイト トレーニング動画をご覧ください。

Canvas LMS の説明動画や，Feedback Studio の概要及び利用方法を説明している動画を，教学推進オフィスが管理する情報共有サイトにアップしています。右の二次元コードからご確認ください。
URL https://sites.google.com/nihon-u.ac.jp/canvaslms

教員用動画　説明サイト

連載 部科校における学習支援等の事例紹介

第18回［生産工学部］学生FDが挑む学びの架け橋づくり

本学部では，学生FD活動を『学生FD活動推進プロジェクト』と称し，平成28年度より本格的に活動を開始しました。学生の視点から「発見」・「発案」・「発信」の三発を活動の柱として取り組んでいます。その活動の一環として，平成31年 4 月に 1，2 年生に対するアンケートを実施したところ，教員と学生との間に距離が感じられることが明らかになり，学生の感じる距離を縮めるため，授業では見せない教員の素の姿を紹介する「教員図鑑」が令和2年に創刊されました。

内容も学生が教員と話したい話題をアンケートで抽出し，教員の学生時代を中心とした学習や研究，学生生活のエピソードなどについて，学生FDのスタッフがまとめました。インタビューを行った学生FDのスタッフ自身も自学科の先生と話せる貴重な機会が得られ，来年度に授業を受けるのが楽しみになったと経験談を語ってくれました。

現在，vol.5までを発刊し，教室棟の入口や食堂などで冊子を手に取ることができるほか，電子媒体も特設サイトで見ることができます。「先生の意外な一面を知ることができた」などの声もあり，当初の目的であった学生と教員の距離を縮める一助となっているようです。

学生FDの学生視点からの三発，さらに教職員との三位一体の今後の活動により，教員の教育改善ならびに学生の学習改善が促進されることが期待されます。

（生産工学部　藤井孝宜教授）



連載 授業改善のための ティーチングティップスの収集と情報提供

第19回［歯学部］薬理学教育におけるアクティブ・ラーニングの導入

歯学部薬理学講座の主要な担当科目は，薬理学と歯科薬理学であり，講義と実習の二本立てで教育を行ってきました。現在，従前行われてきた動物を用いた実習を段階的にアクティブ・ラーニングに切り替えています。概要は以下の通りです。

まず学力が満遍なくばらけた６～７人からなる班を作り，各班に教員１名がつきます。学生は，歯科臨床で起こりうる薬物の使用や副作用を交えたシナリオを読み，付されている課題に個人で取り組み，その後，グループディスカッションを行って模範解答を作成します。更に，課題の周辺知識を含めて，グループで教員から口頭試問を受けるという流れです。

学生には「ディスカッションがあるため，自ら学ぼうとする姿勢を保つことができる」「シナリオが面白いので知識が頭に残る」「口頭試問は厳しいが，自分が理解できていない部分が分かる」など大変好評です。試験成績の解析では，成績の振るわない学生に効果が高いという結果を得ています。一方で，「班にやる気のない人がいて迷惑だった」という声が少なからずあり，そのような学生を如何にやる気にさせるかについては，教員の力量を問われる難題です。今後も，歯学部教育の現状に合わせて手法の最適化を図っていきたいと考えています。

（歯学部　小林真之教授）



※本ニューズレターに記載した資格・学年等は，令和7（2025）年1月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第26号
発　行　日：令和7（2025）年2月1日〔年2回発行〕
発　行　者：日本大学FD推進センター センター長 ソコロワ山下 聖美
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24　電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp　https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/
所 管 部 署：日本大学 本部 学務部学務課　　企画・編集：日本大学全学FD委員会戦略ワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら，学務部学務課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

本ニューズレターに掲載した文章，写真等の無断転載・複製を禁じます。　Copyright(C)Nihon University 2025 All Rights Reserved.